



◎第19回 こまつまちなみ景観賞選考委員

- 【委員長】
森 俊偉 金沢工業大学教授 (小松市景観まちづくり審議会委員)
- 【委員】
小坂 晃平 小松市造園業組合組合長 (こまつまちなみ景観賞実行委員会委員)
五座 由己 (一社)小松能美建設業協会小松委員会委員長 (こまつまちなみ景観賞実行委員会委員)
坂井 修 小松商工会議所専務理事 (こまつまちなみ景観賞実行委員会委員)
千歩 真理子 小松市校下女性協議会会長 (小松市景観まちづくり審議会委員)
前田 弥生 小松市国際交流協会会長 (小松市景観まちづくり審議会委員)
松本 邦博 小松建築設計監理協会副会長 (こまつまちなみ景観賞実行委員会委員)
山前 圭佑 小松市文化財調査委員会委員長(小松市景観まちづくり審議会委員) (五十音順 敬称略)

主催：こまつまちなみ景観賞実行委員会
小松商工会議所／(一社)小松能美建設業協会小松委員会／
小松建築設計監理協会／小松市造園業組合／小松市

【お問い合わせ】
こまつまちなみ景観賞実行委員会事務局(小松市都市創造部まちデザイン第1課) TEL0761-24-8099 (平成30年1月作製)

平成29年度
第19回受賞作品
テーマ「やさしいまち こまつ」

平成29年度
TOPICS



小松駅周辺整備プロジェクト 平成29年度土地活用モデル大賞
都市みらい推進機構理事長賞 受賞

昨年、小松駅周辺が、平成29年度土地活用モデル大賞の「都市みらい推進機構理事長賞」を受賞しました。これは、官民連携“PPP”で行ってきた土地の有効活用が、模範事例として評価されたものであり、まちのブランド力・本市の認知度がさらに高まることを期待しています。

テーマ「やさしいまち こまつ」

まちなみ部門



◎ 北村邸 高堂町

施主 北村 隆
 設計者 株式会社 キャス
 施工者 中田建築株式会社
 農村集落の一画に立地。手入れの行き届いた重厚で風格のある既存家屋の造りを尊重しつつうまくバリアフリー対応を図ると共に、街区の風情の保持・継承をも為している。



◎ 吉田邸 長田町

施主 吉田 竜也
 設計者 慧工芸舎一級建築士事務所
 施工者 株式会社 丸西組
 田園集落の中に位置。端正で現代的なデザインを施し、隣接家屋群と同調させつつ前面に開放的でゆったりとした寄付き部を設け、新旧が共存した景観づくりが図られている。



◎ TAKIGAHARA CAFE 滝ヶ原町

施主 特定非営利活動法人
 ファーマーズマーケット・
 アソシエーション
 設計者 建築研究室セクションアール
 施工者 株式会社 西尾
 古民家を滝ヶ原石等を活用しつつ開放的でオシャレなカフェとして再生。山里の景観を楽しみながらリラックスできる場を提供し、地域のおもてなし心の表出に寄与している。



◎ 日本キリスト教団 小松教会 本町

施主 日本キリスト教団 小松教会
 設計者 山内康子設計室
 施工者 道場建設株式会社
 暖かみのある杉板を多用しつつ角地の特徴を活かした印象的な外観を築くと共に、寄付き部に屋根付の斜路を設けるなど、やさしさと安らぎ感のある街区景観を生み出している。

広告部門



◎ まそらデイサービス 西町

施主 有限会社 見谷メディカルサービス
 設計者 建築研究室 セクションアール
 施工者 株式会社 和泉建設
 緑の植込の中に配置し、木地色と黒色を基調とし福祉施設にふさわしい明解でやさしさと落ち着きのある名称看板となっている。建物も周囲の街並景観とよく調和している。

夜間景観部門



◎ BRASSERIE 1945 土居原町

施主 株式会社 ヴォイス
 設計者 有限会社 東出建設
 築71年の小さな町家を洋風飲食店として改修したもの。通りにほのぼのとした親しみ感のある明かりを投げかけ、街区の夜の賑わいと風情をオシャレに創出している。



◎ イオンモール新小松 沖周辺土地区画整理事業区域内

施主 イオンモール株式会社
 設計者 鹿島建設株式会社 一級建築士事務所
 施工者 鹿島建設株式会社 北陸支店
 新興街区にあって、暖かみのある色調のLED照明で全体を統一し、併せて適材適所の明かりの演出を図り、郊外部の夜間景観の魅力度とおもてなし度のアップに寄与している。

ごあいさつ

小松市には、先人たちによって大切に守り、育てられてきた霊峰白山、木場瀧、日本海など美しく雄大な自然景観や寺社、町家など歴史的・伝統的な建築物が多くたたくんでおり、個性豊かな風景が様々に見られます。小松駅南エリアには、昨年12月官民連携による「Komatsu A×Z Square(こまつアズスクエア)」が開業し、JR小松駅周辺は人々と文化が行き交い、まちの賑わいを創出する北陸の際立ったエリアとなることを確信しています。

さて、「こまつまちなみ景観賞」は、本市の魅力あるまちなみの創出に貢献しているまちなみ景観を選び、顕彰するもので、平成11年から始まり、今年で19回目を迎えました。また、小松市は、だれもがくらしやすく訪れやすいまちを目指して「ひとにやさしいまちづくり」を推進しています。今回は「やさしいまち こまつ」をテーマに募集したところ、全体として62点の応募をいただき、7点が入賞されました。今回入賞されました方々には心からお祝い申し上げます。

昨年には、平成29年度土地活用モデル大賞において小松駅周辺が「都市みらい推進機構理事長賞」を受賞いたしました。この受賞を機に、さらにまちのブランド力が高まることを期待するとともに、市民の皆さまには、今後とも魅力ある小松の景観づくりに積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、審査にあたりご尽力いただきました審査委員の方々、また、多くの作品を応募してくださった市民の皆さま方に感謝申し上げます。



こまつまちなみ景観賞
 実行委員会会長
 小松市長 和田 慎司

講評

こまつまちなみ景観賞も19年が経過し、その成果も年を追って着実に上がってきました。今年は新たな試みとして「やさしいまち こまつ」をテーマに加え、より一層の関心の高まりを期待することになりました。

「まちなみ部門」で47件、「広告部門」で8件、「夜間景観部門」で5件の応募があり、一次の書類審査で、それぞれ11件・4件・3件に絞り込みました。続いて現地審査を行い、市内9カ所での市民投票結果(総数1724票・787票・784票)も加味しつつ、最終的に「まちなみ部門」4件・「広告部門」1件・「夜間景観部門」2件を入賞として選出しました。

「まちづくり活動部門」は2件の応募がありましたが、今後のさらなる活動継続状況を見て判断することとし、今回の入賞は無しとなりました。

今年度は大規模なものは少なかったのですが、小規模ながら各地域の景観特性をよく理解し、周辺環境との調和に配慮したものが多く見られ、地域ごとの景観的特徴が徐々に整いつつあるように感じました。こうした点は、市域全体の景観に抑揚感も生まれ大変望ましい事と言えます。看板サインや夜景観も、いずれも場所柄に考慮を図り、各所の風情強化に効果を発しつつあるとも感じました。

都市の景観は一人一人の関心と努力の積み重ねによって形成されていくものであり、まちづくり活動もより一層活発化し、品位と魅力と賑わいとやさしさに溢れ、皆がうらやみ、訪れたい都市／小松が形成されていくことを期待します。



こまつまちなみ景観賞
 選考委員長
 森 俊偉